

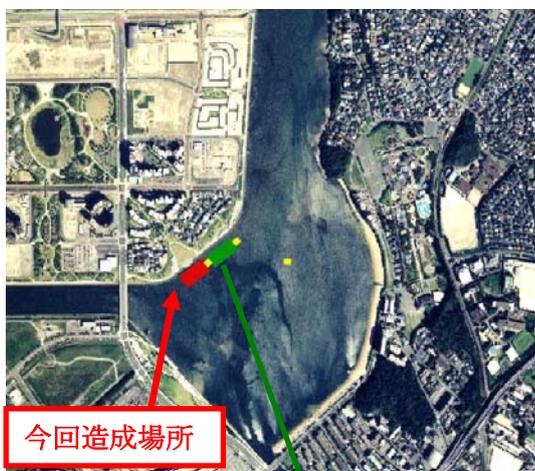
そ の 他

照葉小学校の児童とのアマモ場づくりについて

港湾局では、エコパークゾーン（御島海域）の水質・底質の改善と生きもののすみやすい環境を整えるため、平成17年度より市民参加によるアマモ場の造成事業を行っています。

このたび、照葉の街で生活する子供達が、エコパークゾーンの自然環境をより豊かにする取組を体験するとともに、自然と触れ親しむ機会を得ることで「自然と人の共生」の大切さを体感する環境教育の場となるよう、照葉小学校の児童（2，3年生）と一緒にアマモ場づくりを行いました。（H19.10.12実施）

アマモ場づくりの場所



アマモ場造成面積

	平成17年度	250 m ²
	平成18年度	800 m ²
	平成19年度	800 m ²
合計		1,850 m ²

アマモ場の様子



こども達の作業風景



「コアジサシ」の保全に関する取り組みについて

絶滅危惧種のコアジサシは、初夏に繁殖のために博多湾へ飛来しています。アイランドシティでも、工事区域の更地で営巣活動が見られており、工事の円滑な推進と希少な鳥類の繁殖保護の双方を進めるため、本年度、市民団体の提案を受けて、市民参加によるコアジサシのデコイ（模型）の製作・設置と外敵から守るためのシェルター設置を行いました。

平成19年4月15日に行った「親子でコアジサシのデコイ製作」には、11組31名の親子の参加をいただいて、工事予定のない市4工区に設置しました。

コアジサシの飛来は5月頃から見られ、6月には約1200羽が確認されましたが、デコイを設置した市4工区にほとんどが集中していました。また、コアジサシの雛がシェルターを利用していることが確認されました。



営巣場所 図-①



親子でコアジサシのデコイ製作



コアジサシのデコイ



デコイ(右側2体)とコアジサシ(左側2羽)



シェルターを利用しているコアジサシの雛



コアジサシ(右)と雛(左)

アイランドシティ周辺の環境保全に向けた取り組み

【生物生息環境改善実験】

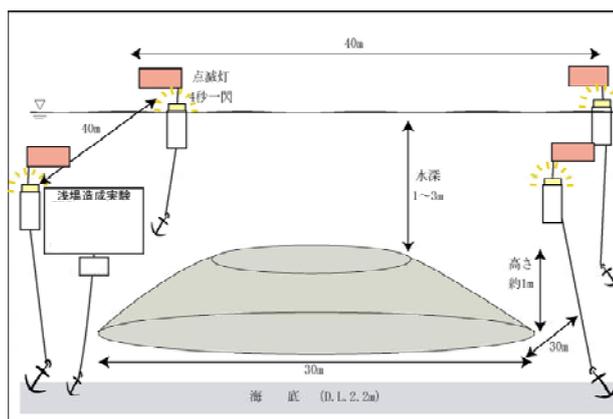
和白海域内で貧酸素水塊の発生により生物の生息環境が劣化する地区において、砂による台状の浅場を造成して、貧酸素水塊の発生に伴う生息環境への影響を緩和する実験を行っています。（10月に実施、数ヶ月後よりモニタリングの予定）

【鳥類採餌場・休息場調査】

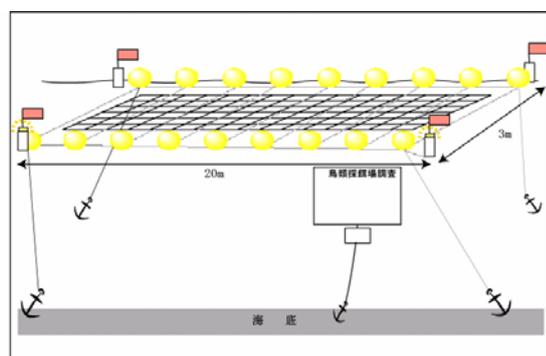
和白海域に有用藻類(ノリ)を活用した代替採餌場，御島海域に浮島(フロート)を利用した代替休息場を設置して，鳥類保全の有効性に関する調査を行います。



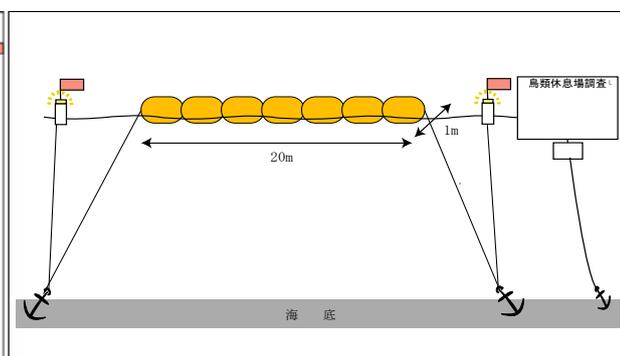
設置場所



浅場 (図-②)



採餌場 (図-③)



休息場 (図-④)